2023 年 10 月 28 日 Version 1.0

研究に関する公開情報

公立陶生病院 では、 以下にご説明する研究を行うことを計画しています。この研究では通常の診療で得られた過去の情報を使用します。本研究に診療情報を使用されることを望まない方は、下のお問い合わせ先に申し出いただけましたら、その方の診療情報を収集することはありません。お申し出になられても、診療を受ける上で不利益を被ることはございませんのでご安心ください。また、この研究は当院のみで実施されます。

[研究課題名] 高齢者誤嚥性肺炎に関する初期抗菌薬選択とその予後についての臨床的検討
その超広域抗菌薬は本当に必要か

[当院研究責任者] 部署名 感染症内科 氏名 武藤 義和

[研究の背景・目的] 日本は超高齢化社会といわれて久しく、2040 年には 35%が 65 歳以上の高齢者となると推定されています。そのため高齢者の誤嚥性肺炎は増加の一途をたどっており、近年の日本人の死因でも誤嚥性肺炎からの老衰による死亡が急激に増加する結果となっているのが現状です。高齢者の誤嚥性肺炎における主な起因菌は肺炎球菌、連鎖球菌、ぶどう球菌、クレブシエラや COVID-19 をはじめとした各種ウイルスであり、緑膿菌や ESBL(Extended Spectrum beta(β)-Lactamase)産生菌によることは比較的多くはないですが、日本の肺炎ガイドラインでは長期療養が他施設に入所中であったり経腸栄養をしている患者に対しては耐性菌リスクが高いとして、緑膿菌や ESBL のカバーを念頭とした抗菌薬選択が推奨されてきています。結果的に国内の市中肺炎に関する抗菌薬使用の報告では、耐性菌が検出される例は 10%にとどまるのに対し、広域抗菌薬の使用が 30%を越えていることから、過剰な広域抗菌薬の使用が懸念されており、耐性菌のさらなる増加に関連しうるため当院のデータを用いて、高齢者誤嚥性肺炎の初期抗菌薬の選択がその予後に関連するかどうか、そして広域抗菌薬が本当に必要な患者の背景とはなんなのかについて評価いたしました。

■研究の対象となる方

2021 年 1 月から 2023 年 12 月までに公立陶生病院に入院した 80 歳以上の誤嚥性肺炎が主病名の方

■ご協力頂く内容

上記期間に診療上得られた検査データと、診療録に記録された診療情報(年齢、性別、身体所見、症状、採血検査、画像検査、生活環境、治療内容、治療経過など)を研究に使用させて頂きます。それらの使用に際しては、研究代表者がこれを管理し、政府が定めた倫理指針に則って個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されることはございません。診療以外での採血など、患者さんに新たにご負担頂くことはございません。

■研究期間 実施許可から 2025 年 12 月末まで

■個人情報に関して

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。また、本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■お問い合わせ先 公立陶生病院 電話番号 0561-82-5101 FAX 番号 0561-82-9139
研究代表者 感染症内科 武藤 義和